

会 議 録

会議の名称	令和3年度 第3回和泉市総合教育会議
開催日時	令和3年10月14日(木) 午後3時30分から午後4時40分まで
開催場所	市役所3階 3A・3B会議室
出席者	<p>[構成員] 辻市長、小川教育長、本間教育委員、藤原教育委員、深堀教育委員、西家教育委員、久米教育委員</p> <p>[事務局] (教育委員会) 並木教育次長、辻生涯学習部長、大槻教育指導監、飯阪教育・子ども部理事、辻野学校園管理室長、大野学校教育室長、森子ども未来室長、鍛冶教育総務課長、岩井教育総務課総括主幹、小路教育総務課企画係長、川崎教育総務課主事 (市長部局) 東政策企画室長、奥政策企画室企画経営担当課長、高垣政策企画室総括主幹 江口政策企画室主事</p>
会議の議題	教育大綱について
会議の要旨	教育大綱の改訂案について確認し、意見交換を行った。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他 ()
その他の必要事項	

1. 辻市長から、開会の挨拶

2. 事務局から、改訂案等の説明（資料1～3）

○次の事項について、事務局（政策企画室）から説明。

- ・教育大綱の改訂案（資料1）
- ・現教育大綱と改訂案の比較（資料2）
- ・前回会議からの修正内容について（資料3）

3. 辻市長から、教育大綱の改定案に対する想いについて

○現教育大綱の策定においては、私の道徳教育に対する想いを多分に汲んでいただいたが、今回の改訂においては社会情勢の変化等にも対応しつつ「弱い立場の人を本気でいたわる政治」をめざすという想いを盛り込んでいる。

○具体的には、「誰一人取り残さない教育」や、「多様性を認め合う心・思いやりの心の育み」などで、私の想いを表現したが、これまでの教育委員の皆様との意見交換を振り返ると、皆様と私の想いが合致しているところも多くあった。

○少し話が逸れるが、多様性についての議論では、私の好きな詩人である金子みすゞさんの『大漁』という詩を思い起こすことがあった。これは、鯛の大漁により人は祭りのように喜んでいるが、作者は、鯛の目線から捕獲された仲間を弔う、鯛を思いやる詩である。金子みすゞさんの『私と小鳥と鈴と』にある「みんなちがって、みんないい」というフレーズも、今の多様性につながるものとして大変印象に残っている。

○このような想いを盛り込んだ教育大綱の改訂版も非常に良いものに仕上がったと考えているが、だからこそ、これを実現することは大変なことだと思う。

○この教育大綱が絵に描いた餅にならないよう、「誰一人取り残さない教育」や「多様性を認め合う心の育み」に向けて取り組んでいくことが重要である。

○市長としても、それをしっかりとサポートしていくので、教育振興基本計画の改訂にも取り組んでいただき、具体的な施策につないでほしい。

4. 意見交換

【辻市長】

○本日の意見交換にあたっては、教育大綱改訂案の修正に関する意見に加え、教育大綱改訂後に、市長と教育長、教育委員がどのような連携を行い、どのような取組みを行うことを期待されるのか等、今後の総合教育会議のテーマになるようなご意見もいただきたいので、よろしく願います。

【小川教育長】

- 修正案の内容について、市長・教育委員会の想いをうまくまとめていただけたと思うので、文言修正についての意見はない。
- 改訂案は、基本理念を堅持しながら、策定から5年の間に新たに表出してきた課題について、しっかりと触れることができている点は良いと思う。
- 特に、「多様性を認め合う心」を育むことは、子どもの貧困やヤングケアラー、虐待、いじめといった社会問題への対応として非常に重要であるし、教育現場だけでなく、行政、特に福祉との連携を重視して、「誰一人取り残さない教育」を実現するという想いが、教育大綱の全体で表現できていると思う。
- 4月に策定した「和泉市輝く子どもを育む教育のまち条例」では、学校や行政だけでなく、家庭や地域等を巻き込んで「社会総がかり」で教育に取り組むことを定めているが、そのことについて、就学前の基本方向と学校教育の基本方向で表現している。今後、「社会総がかりの教育」をどのように具体化するかについて、総合教育会議で市長と協議していきたい。
- 私も約40年にわたり、教職員等として和泉市に関わったことで、和泉市への郷土愛が培われた。幼少期に郷土愛を育むことが重要であることはもちろん、大人になってからでも郷土愛を育むことで、地域の活性化にもつながる。「郷土への誇りや愛」をより強く打ち出していく意味も込めて、学校教育及び生涯学習の基本方向のそれぞれで取り組むこととしている。
- 「郷土への誇りや愛」を育むことは、道徳心や思いやりの心の育みにもつながるし、グローバルに活躍する人材の育成にもつながる。和泉市で育った子どもたちが、将来どこで活躍したとしても、「和泉市で育ってよかった」というように思ってもらえるような、教育やまちづくりをしていきたい。

【本間委員】

- 前回の会議で、いろいろと申し上げた意見をうまく汲み取っていただいたと思っている。
- 個人的な感覚であるため、改訂案を修正してほしいというまでのことではないが、一点だけ、「社会総がかり」という表現に少し違和感がある。「全員が力をあわせて」という意味だと思うが、「全軍で攻撃する総攻撃」に由来する言葉であるため、「社会全体」の方が適切かと思う。
- 「社会全体」というと、組織とか制度という意味合いが強くなり、個人の自由を認めない全体主義的な印象を与えるため、難しいところではあるが、「総がかり」はあまり好きな表現ではない。
- 次に、教育大綱の改訂とは関連しないことであるが、市長は教育委員会制度の意義をよく理解されており、首長からの独立性も尊重されている。この総合教育会議については、市長の考えを聞き、教育委員会の考えを伝えるという、調整の場としてよく機能していると思うので、このような連携を続けていきたい。
- 今後、公教育を推進するにあたって、「誰一人取り残さない」ためには、福祉の充実が必要であり、教育委員会だけでは対応できないので、市長部局との連携が重要なポイントになる。私も大学教員であるが、「これからの大学教育は研究するだけではなく、生徒と関わるカウンセラーの役割も必要」と言われており、教育全体がそのような方向に向かっている。ヤングケアラーの問題も福祉面の支援が必ず必要であるし、総合教育会議では、教育と福祉の連携で重なり合う部分について、議論ができればと思う。

【藤原委員】

- 文章については、これまで議論してきたことを土台に、ブラッシュアップされているので、修正等は必要ないと思う。表現の仕方でも、様々な配慮がなされており、生き生きした文章になっている印象で、どこに出しても恥ずかしくない教育大綱になったと思う。
- ただし、1点、資料1に示された改訂案の配色について意見させてもらおうと、ユニバーサルデザインにも配慮し、誰にでも見やすいデザインにしてもらいたい。
- 次に、教育についての意見であるが、市長と教育委員会との連携は非常に良好であると思う。しかし、事務局と学校現場の連携について、乖離しているとまでは思っていないが、しっかりと同じ方向性のもとで連携できているのか気になっている。もし、その間にギャップがあるならば、それを解消し、方向性をあわせる必要があると思う。教育大綱を学校現場にも浸透させ、その実現をめざすにはどうすればよいか、また、事務局と学校現場それぞれの役割についてなどお互いの想いを共有する場が必要だと思う。総合教育会議とは別の協議会を立ち上げるのか、教育委員が参画するのかなど、いろいろな方法があると思うが、事務局でそのような場を設けることを検討いただきたい。
- 学校の先生もいろいろな考えを持っていると思うが、現場との相互理解を深めるには、情報を共有し、意思疎通を図るという基本的なことを、しっかりとやっていかなければならない。現場の意見を吸い上げ、それをフィードバックするシステムを構築していただき、我々教育委員も主体的にそのような場に参加できればと思う。

【深堀委員】

- 教育大綱の改訂案について、全体的にわかりやすい表現になってよくなったと思う。
- ただし、多様性を認め合う心の箇所について、自分の感覚では、「性別・国籍・障がい」といった具体例を省略せず、入れておく方がいいのではと思う。「価値観」と「性別・国籍・障がい」は性質が異なり、性別など「本人の意思ではどうしようもないもの」を理由に不当な扱いを受けない、ということを明確にする方がいい。今、総合教育会議の出席者を見渡しても、男性が非常に多く、女性がマイノリティにあたるが、その女性の立場から申し上げると、はっきりと表現されているほうが心強い。
- 女子教育を考えたとき、令和の時代に男女の差別はないだろうと思われるかもしれないが、「女の子なんだから大学受験しなくていい」とか、「兄が大学に行っているからあなたは短大でいい」と言われる女性が未だにいて、そういうことをなくしていきたい。子どもたちが「女の子だからやらなくていい」と言われて、100%の力を出さなくなることは、社会全体としても損失になる。
- 女性リーダーを育成し、それをロールモデルにして、女性の前向きな意識変化を促し、女性の活躍を推進する取組みが必要。学校で言うと、女性の校長が増えれば、子どもにとって身近な女性リーダーとしてのロールモデルができ、女性の地位向上にもつながると思う。
- 市長から弱い立場の方に目を向けていくという発言もあったが、ぜひ、女性の管理職を増やすことにも力を入れていただきたい。

【西家委員】

- 教育大綱の改訂案について、カラーにしたことで見やすくなったと思う。
- 修正案の内容について、子どもたちに関することを「育みます」とし、学校側が実施することを「整えます」や「取り組みます」などとするなど、表現が統一され、整った文章になったと思う。
- 表現について、少し細かい意見を言わせてもらおうと、「2. 学校教育の基本方向（5）」の最後の部分で、「学校づくりを推進する」という表現が使われている一方で、「1. 就学前教育の基本方向（3）」では「環境を整える」という表現が使われている。ニュアンスの違いによるものかとは思いますが、似た意味であるので統一してはどうかと思う。
- 同じく、「3. 生涯学習の基本方向（3）」の「郷土愛を育みます」というところと、「2. 学校教育の基本方向（4）」の最初「郷土和泉を誇りに思い」というところが重複しているように感じる。市として、強調したいというのであれば、重ねてもよいが、個人的には気になった。
- 「1. 就学前教育の基本方向（2）」で子どもの障がいや発達状況に配慮したという部分について、確かに、体や精神の障がいをもって生まれる方もいらっしゃると思うが、後天的に障がいをもつ方もいらっしゃると思うので、「3. 生涯学習の基本方向（2）」のスポーツ交流のところでも、身体的な障がいのある方全員に対する配慮があってもよいかと思う。
- 教育というものは、否応なしに、政治と経済に大きな影響を受ける。子どもたちにとって、先生の指導の影響が大きいことは確かだが、それ以上に、大きな枠組みである政治・経済の動きによる社会変動、例えば教育制度そのものが大きく変わってしまうことに等による影響の方が大きい。学校の先生には、教育大綱が「学校教育」だけではなく、「就学前」から「生涯学習」まで一貫したものになっていることを理解してもらう必要があり、その負担は大きく、時間もかかると思われる。
- 学校現場が、この教育大綱の実現に向けて、しっかりと取り組んでいく環境を整えるため、市長には、30年、40年先を見据えて、政治と経済からのアプローチをお願いしたい。

【久米委員】

- 現行の教育大綱は、少し難しい印象であったが、改定案は誰が読んでもわかりやすいものになったと思う。前回の会議で出た意見もかなり反映されており、例えば、「1. 就学前教育の基本方向」において「配慮」や「支援」といった言葉が入ったことで、福祉とのつながりが表現できたと思う。
- 個人的には「社会総がかり」という言葉があまり好きではなく、以前も具体的なイメージがつかないのではないかと申し上げたが、「1. 就学前教育の基本方向」において「家庭・地域・事業者と連携し」という説明が盛り込まれ、わかりやすくなったと思う。
- 教育大綱の文案については、今までの議論を反映してきた文章になっているため、特段の修正は必要ないと思う。
- 次に、教育についての意見としては、今後の教育委員会と市長部局との連携を考えると、より多くの女性視点からの意見が必要だと感じている。例えば、本日の教育委員会定例会の資料の中で、学力テストの改善に関するものがあつたが、非常に男性的な視点であつて、本当に子どものことをわかっているのか疑問

に感じた。家庭にもよると思うが、一般的には母親の方が子どもに近く、父親は子どもの寝顔しか見られないという家庭もある。教員現場からの意見を吸い上げて、課題解決や教育方針を決定することは必要であるが、その現場に女性が増え、女性視点からの教育に関する意見を積極的に入れていくことができれば、教育がよい方向に変わっていくのではないかと思う。そのためには、女性のリーダー、女性校長を増やすことが必要であり、市はその環境を整えてほしい。

【辻市長】

- 藤原委員からの指摘にもあるとおり、行政の考えを実際に活かしていくのは教育現場であるので、教育現場との距離を近づけていきたい。個人的な見解であるが、市長部局と教育委員会とは組織が異なるからか、学校現場には気安く入りにくい印象があり、それを打破するために、今後、積極的に教育現場の方々と意見交換や情報交換をしていきたい。
- 市長だけが、「学力テストで大阪府の平均を上回ろう」とか「情操教育を高めていこう」と言っている、現場の先生方が同じ想いを持ってくれないと、それを実現することはできない。教員の方々と交流し、情報共有を図る場を設けることが必要だと感じている。
- また、深堀委員と久米委員から女性登用についてお話をいただいたが、私も同じ思いであり、女性管理職を増やすために取り組んでいるところである。いまだに日本社会においては、育児・家事が女性に偏り負担になっていることが多い状況で、本市で実施している係長級の昇級試験においても、女性の受験率は男性に比べてかなり低い。女性活躍については、長期的な視点で取り組まなければならないテーマであるが、行政として、子育てとの両立支援などに取り組み、女性が活躍できる環境を整えていきたい。
- 今日は、教育大綱の修正に関する意見をはじめ、貴重な意見を多く頂戴した。
- パブリックコメントを実施するための「教育大綱の改訂案」について、皆様の意見を踏まえた調整を私に一任していただいてよいか。

【委員一同】 異議なし

- ありがとうございます。それでは、本日のご意見を参考にしながら、最終的な案を調整する。
- パブリックコメントの結果については、2月に予定する総合教育会議で報告し、最終案のとりまとめをさせていただきます。
- 本日の委員皆様の意見を踏まえて、今後の総合教育会議のテーマについても、教育長と整理させていただきたいと思うが、教育長、いかがか。

【小川教育長】

- 市長をはじめ、教育委員からも事務局と学校現場の連携体制についてご意見をいただいた。
- 事務局には、教育指導監や学校教育室長、指導主事など教員経験者が多く配置され、学校現場との意思疎通は、そこを中心に行っており、学校の体質や課題についても承知している。

- 現場の意見の吸い上げということについて、教員にこのような会議に参画してもらう方法も考えられるが、市長や教育委員に実際の教育現場を見ていただく方がよいのではないかと考えもある。
- 教員にもいろいろな考えの者がおり、よくある悪い例でいうと、自分の持っているイメージが正しいと信じて、子どもを教育している教員が多い。例えば、部活動においても、教員が自分の過去の成功体験にとらわれてしまって、子どもたちにも同じ指導をしてしまうことがあるが、これは危険で、社会全体の変化をしっかりと捉えて、時代のニーズに応じた教育を提供していく必要がある。
- 市長が、学校現場をみたいということであれば、私が事前に学校を指定し、準備万端の学校を見てもらうということではなく、普段の学校を見てもらうというのも選択肢だと思う。今、学校の「見える化」が大きな課題と考えているが、頑張っている教員の自然体の姿を見ることができるとは思う。
- また、教育大綱の改訂案について、委員の皆様の意見を聞いて、私なりに感じたことについて補足させていただきたい。
- まず、「社会総がかり」という言葉について、やや否定的なご意見をいただいたが、これは教育条例を策定する際にも議論があり、社会の積極的な教育への関わりを求めて、この言葉を使用した経緯がある。
- 教育に関しては、学校だけの問題と考えられがちであったが、最近になってやっと、「学校だけに全てを頼ってはいけない」という意見がでるようになってきた。教育条例の策定にあたっては、保護者や地域が「客体」ではなく、「主体」として関わっていただくという思いを込めた。そのような背景もあるので、ニュアンスについてのご意見は様々あると思うが、消さずに残していただけるよう、よろしくお願ひしたい。
- それから、郷土愛に関して、「学校教育」と「生涯学習」の基本方向で、重ねて記載していることについて、児童生徒にしっかりと和泉市を知ってもらい郷土愛を育むことと、他市から転入してくる住民も含めて、生涯学習の観点から、多世代にわたり郷土愛を育むこと、双方の取組みが必要だと思う。繰り返しになるが、私は和泉市にゆかりがなかったものの、今は好きになって、誇りをもっている。市民全員にそのように思っただけのよう、学校教育だけでなく、生涯学習の面からもそれを促進していきたい。
- 教育委員や市長からいただいたご意見を参考に、総合教育会議のテーマを定めて、今後も意見交換していきたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

5. 閉会

【事務局】

- 本日委員の皆様にごいただいたご意見を踏まえて、「和泉市教育大綱の改訂案」をまとめ、12月上旬に予定されている市議会第4回定例会 常任委員会協議会で報告を行ったうえで、パブリックコメントを実施し、最終、令和4年2月に予定している総合教育会議で改訂版の確定を行ってまいりたい。
- 以上をもって、令和3年度第3回和泉市総合教育会議を終了する。

< 終 了 >